

## 酸素半分と二酸化炭素半分だと...

理科の授業で「酸素にはものを燃やすのをたすける働き(助燃性)がある」ということを学習しました。確かめるために酸素( $O_2$ )の中だとろうそくは激しく燃えることは理科室の実験でわかりました。

そこで教室で次の実験をしました。酸素の中でスチールウールを燃やしました。当然のことながら空気中よりも激しく燃えました。「花火みたい!」そしてそのあとに石灰水を入れると...

みんなは「白濁する(白く濁る)」と言いました。実際に石灰水を入れてみると白濁しないのです。そうです。スチールウールは鉄(Fe)で炭素(C)を含まないので二酸化炭素( $CO_2$ )は発生しないのです。炭素(C)を含むものが燃えると二酸化炭素( $CO_2$ )ができるのですね。

2 つめの実験は酸素と二酸化炭素と集気瓶に半分ずつ、つまり集気瓶の中は酸素 50% 二酸化炭素 50% になっています。(空気中では酸素約 20%、二酸化炭素約 0.03%です。)

「さてこの中に火のついたろうそくを入れて見るとろうそくの火はどうなるでしょう?」

ア 空気中よりも弱くなる。

イ 空気中と同じ。

ウ 空気中よりも激しく燃える。

予想をしたところみんなは「空気中より弱くなる。」理由を聞くと、「二酸化炭素が空気中より多いから、燃えにく

くなる」が大半でした。そして実験です。結果はというと...

そうですね。空気中より激しく燃えました。燃えるのに関係しているのは酸素です。酸素があるかないかなのですね。

## マメコブシガニ



先週です。クラスの子がカニを持ってきてくれました。でも子どもたちは「このカニって食べられる?」???何?学校で飼ってるカニはサワガニで食べられるけどね、って言おうとして見てみると、なんと海のカニ!これって海水で飼う?

担任はその日に一ナンで海水の素を買ってきたのです。でも調べてみるとそのカニは「マメコブシガニ」といいました。次の日かわいそうに大部分がなくなりましたが1匹は何とか生きていました。

## マメコブシガニ

河口部汽水域から前浜干潟に生息する。干潟の表面をヒョコヒョコと歩く。甲羅は2センチぐらい。甲羅は丸くて、とても硬く、拳のよう。甲羅表面には小さな顆粒が散在し模様はいろいろなバリエーションがある。移動の時、横ほふくせんしんに歩かずに前に匍匐前進のように歩く。バックも出来る。